



写真1 / 地上 18F のホテル部分

2020.05 Monthly Report

都市公園の新たなカタチを指し示すか!?

宮下公園からミヤシタパークへの大変身

～渋谷区初の立体都市公園として6月開業～

☆宮下公園の面影はほとんどないミヤシタパーク

JR 山手線と明治通りに挟まれた高架上のユニークな緑地公園として、長いあいだ区民や付近で働く人々、学生たちなどに親しまれてきた宮下公園が、この6月、その名も《MIYASHITA PARK (ミヤシタパーク)》となり、装いも新たにグランドオープンする。

装いも新たにと、さらりと書いたが、昔の宮下公園を知っている世代から見ると、驚愕の変身ぶりとしかしいようがない。なにしろ公園の端っこ（原宿側）には地上 18F のホテルがドンと建ち、渋谷駅側に広がる公園部分は3層・4層の商業施設の屋上に配される形になる。しかも、その3層・4層の部分には、名だたるブランドショップを中心に、世界中・日本中の有名店が入居するのだ。

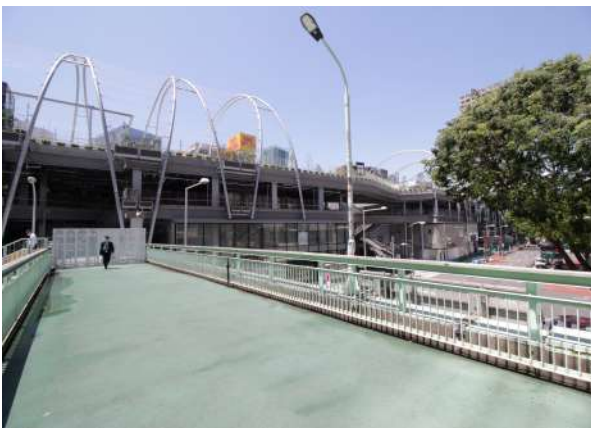


写真2 / 明治通りの横断歩道橋からみるミヤシタパーク

さらに公園部分には、2011（平成 23）年～2017（平成 29）年までの「宮下ナイキパーク」時代に一部で好評を得ていたスケート場やボルダリングウォールも再設置されるという。

現在 40 歳代～60 歳代ぐらいの世代が親しんだ宮下公園は、1964 東京オリパラの際、渋谷川の暗渠化に伴って高架化され、JR 山手線の線路（築堤）に並行した形で延びる宮下公園だった。

実はそれ以前の宮下公園は、1930（昭和 5）年に旧東京市の都市計画に基づき造成された緑地公園で、山手線の線路（築堤）の脇下に細長く延びる、高架でもなんでもない、ごく普通の緑地公園だったらしい。

そんな 1930 年代から続いていた、線路沿い（明治通り沿い）に細長く延びる、余計な遊具などのないシンプルな緑地公園という面影は、ミヤシタパークのプレスリリースなどをみると、ほぼないといったほうがいい。

そうした変身への予兆は、実は前述「宮下ナイキパーク」時代にすでに現われていたのだが、昔の静かな宮下公園を知っている世代からは、この宮下ナイキパークも不評だった。

そんな紆余曲折をも乗り越え、1964 東京オリパラをキッカケに高架化した宮下公園は、かくして 2020 東京オリパラをキッカケに全面的に推進された渋谷駅周辺の大再開発の流れに乗り、さらに有効な土地活用を